



平成26年10月15日(水)
校長通心 No.32 校長 馬渡教二



いのち輝くとき (宮澤章二)

頑張りすぎるなよ と人から言われても
山の好きな人間は やっぱ山へ登る
北極を目ざす人間は やっぱ北極へ行く
—— 計画と準備と強じんな魂を支えにして

ほんとうに好きだから それが出来る
ちゃんと目標があるから それが出来る
ただの思いつきでないから それが出来る

少しぐらい頑固に頑張りすぎたっていい
少しぐらい自分の意志を通したっていい
少しぐらい不眠不休の心弾む時間を持ち
好きなことのために無理をしたっていい

自分にも《いのち輝くとき》があること
自分にも限りなく美しい瞬間があること
—— それを知るために生きたっていいのだ

自分自身をコントロールする(言われる前にこの辺で止めよう)力＝「自制心」

昨日は、台風19号の接近で臨時休校となったけれど、2年生は先週グッジョブ・ウィークを無事に終了させることができた。お疲れ様でした！！それぞれの事業所で働くことを通して、「働くことの意義・楽しさ・苦しさ」そして「社会人として必要なマナー・自分に割り当てられた責任」等を学べたことはまぎれもなく「**文の車輪**」であっただろうし、実際に身体を動かし汗を流しながら任された仕事に取り組んだことが「**武の車輪**」。そして、世話をしてくださった各事業所の人たちと、良い人間関係を築こうと頑張ったことが「**絆シャフト**」となったのだと思う。……………そして、今週金曜日からは文化祭週間に突入である。生徒会のメンバーが出してくれている「生徒会だより：絆のシャフトをぶっとく」によると、今年度のテーマは「**夢限大～Nothing is impossible～**」で、「**自分の夢を叶える可能性は限りなくデカく、私たちに不可能なことはない！**」ということで、2学期全校で取り組む大きな行事の最後を迎えることになる。優先順位を決めて(教科展示作品やらステージ発表やら学年展、各係活動…)計画的に取り組まないと忙しくなりそう。でも、中学生にとって行事や勉強や部活で忙しいのはとってもいいことだと思う。時間をもてあましてテレビの見過ぎやケイタイ・スマホ・ネットのやり過ぎになるよりはずっといい。

テレビ中毒…例えば、テレビのニュースや番組で、「こっちが善人であっちが悪人」とか「こっちがアタマイキャラでこちらはオバカキャラ」、「そっちが勝ち組、あっちは負け組」とか…。何でもわかりやすく伝えようする結果、全てものごとを二つのものが対立するような構図で描く傾向がある。こういう構図で、ものごとを見せられていると、現実、もっと複雑だったり、裏があつたりするものなのに、それらすべてが無視されて単純に○か×かの世界に見えてきてしまう。こうして「いい者VSワル者」「敵か味方か」「好きか嫌いか」「自分に合うか合わないか」「役に立つか立たないか」という考えに走ってしまい、その結果「**自分が気に入るか入らないか**」で単純判断してしまう人間が増えていくのではないだろうか？人間は、家族のように身近な存在から流される情報を無条件に信用する癖があるから、テレビがある人物を「ワル者」扱いや「敵」と報道すると、それが「天の声」となって世間のムードを決めてしまう傾向がある。だから、ある番組で「これは役に立つ」「あれは健康にいい」と人気のタレントが言うと、アツという間に売り切れてしまう(バナナダイエットが効果あるといえバスーパーからバナナがなくなったり、サバ缶が身体にいいとなるとそれがなくなったり…)ことも起こる。世の中の中の事象をそのつど細かく「哲学」することを忘れ、みんなが「思考停止」に陥れば、テレビ様のお告げ通りに世間が動く異常事態が出現し、まるでテレビ様が神様状態になっていることがよくある。これが、テレビ中毒の一番の問題点だと思う。

ケイタイ・スマホ中毒…一ヶ月何千円かで世界中の情報が手に入り、チケットの予約もできて、地図検索もあるから迷うこともない。何より、友達と「つながって」いられ、いつでもどこでもチャットやメール、ラインもできる。「今日は、学校で言い過ぎちゃってゴメン！」とか、謝るのも簡単にできてしまう。けれど、後で、ケイタイで友達から聞けば何でも物事が済んでしまうため、**先生が指示を出しても真面目にノートに書き留めたり、アタマの中に注意深くメモったりする必要がなくなり、集中力が衰えていく**。待ち合わせに遅れても、ケイタイで、「遅れるから先にお店に行つて」と伝えればいいし、どこの店に行けばいいかも後から聞けるから、「**申し訳ない**」という気持ちすら起こらない。だから、**今やっている仕事をどうしても時間内に終えて待ち合わせ時間に間に合わせようとする「覚悟」や「潔さ」が鈍っていく**。面と向かって、感謝したり、感激したり、謝ったり、怒ったり、反対したり…そうした当たり前の感情表現が少なくなり、ネットやメールの中で、**後から言う方が、相手の顔を見なくて済むから、楽になっていく**。…この感覚が、掲示板やメールでの「イジメ」をエスカレートさせてしまっているのも否めない。

…

テレビにだって、すばらしい感動的なドキュメンタリーもあるし、ケイタイ・スマホにだって値段以上の便利さがあり、とっても優れたツールには間違いない。つまり「見過ぎ・使いすぎ」＝「依存・中毒」になるかどうかは、「**使う人の心がけ**」ということになる。これを知ってる大人は心配だからこそ、「テレビばかり観てちゃダメ！」「ゲームばかりしてちゃダメ！」「ケイタイばかりいじっていたらダメ！」…と、よく言うのだけれど、**言われる前に、この辺でやめておこうと自分自身を制御できる心を持てるかどうか？自分が自分の行動の主人になれるかどうか？が中学生にはとっても大切**だと思う。